

研究レポート No.634



麦の雑草防除の現状とイネ科雑草に有効な除草剤

【1 成果の概要】

- (1) 岩手県内の麦作では土壌処理剤が散布されていないほ場が3割程度あると推定されます。
- (2) スズメノテッポウ、イタリアンライグラスといったイネ科雑草の被害が増えています。
- (3) イネ科雑草に有効な土壌処理剤が登場しています。状況に合わせて活用しましょう。

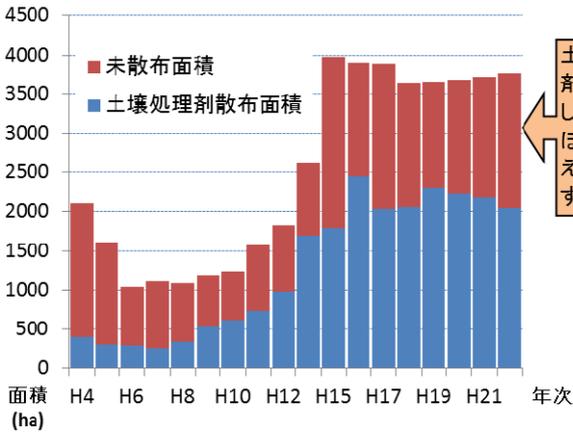


図1 麦作における土壌処理剤の散布状況

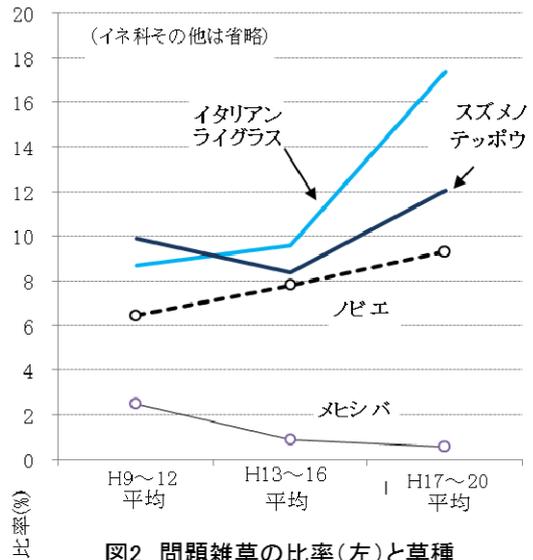
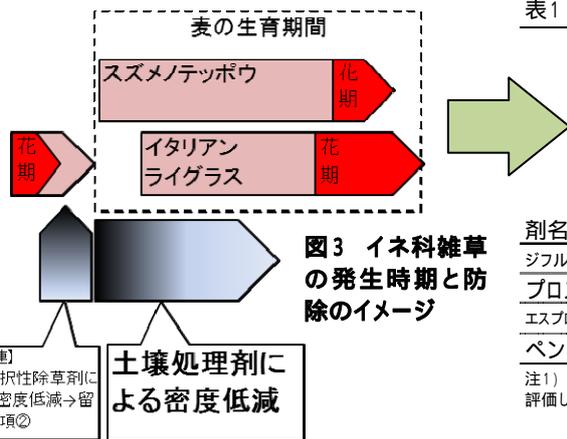


図2 問題雑草の比率(左)と草種(右、イネ科雑草分)

転換畑では湿害に強いイネ科雑草が増えやすくなります。そして土壌処理剤を散布しないと、発生期間の長いイネ科雑草を抑えるのが困難になります。

8月 9月 10月 11月 4月 6月 7月



イネ科雑草に有効な除草剤の利用

例1：ブルスルホカルブ

例2：エスプロカルブ+ジフルフェニカン

表1. 草種別殺草効果

剤名	イネ科雑草		広葉雑草		
	越年性雑草	夏雑草	越年性雑草	夏雑草	
ジフルフェニカン+トリフルラリン	-	-	ヤ	ノ	-
ブルスルホカルブ	-	-	エ	ハ	ハ
エスプロカルブ+ジフルフェニカン	注2	-	ム	コ	ル
ペンディメタリン	-	-	グ	ロ	シ
			ラ	ギ	ロ
				ク	ク
					サ

注1) 県内で主に発生する雑草を対象に、殺草効果を「極大：>>>、小、-はデータなし」で評価した。注2) グリホサートカリウム塩との体系処理では効果が更に高まる。

【2 留意事項】

イネ科雑草の発生密度が高いほ場や、防除がより困難なイタリアンライグラス等が多いほ場では、ブルスルホカルブ、あるいはエスプロカルブ+ジフルフェニカン剤を散布するだけでは十分な効果を得られないことがあります。このような場合は、

茎葉処理剤との体系処理、作付前の非選択性処理剤の散布、輪作などの対策を組み合わせることで防除効果を高められます。